

当館が認知した主な犯罪の事例（7月～9月）

以下は、当館が認知した特徴的な犯罪の手口です。

※ 特に断りがない場合、実際に邦人の方が被害に遭った（若しくは未遂）事例です。

1. 侵入盗の被害

デュッセルドルフ市内に出張中、駅に近いホテルで就寝していたところ、見知らぬ男性が居室内に侵入して、荷物を物色していた。

※ 最近、オートロック式や電子鍵を使用したホテルが多く、そのような傾向を悪用した犯罪が増えています。

※ 可能な範囲で、二重ロックやドアストッパー、音が鳴る鈴を併用するなどして外部からの侵入を抑えましょう。たとえ短時間の外出であったとしても、ホテル内に貴重品を置くことのないようにご注意ください。

2. スリ、置き引きの被害

デュッセルドルフ市からミュンスター市までの間、快速列車に乗車中、別の乗客が降車時に転倒したため、一時的に注意が削がれたところ、気がついた時にはスーツケース上に置いたはずの荷物が無くなっていた。

※ 特に駅や電車内では、注意が他に向いている隙を利用して、複数人で荷物を盗む手口もあります。荷物から決して目を離さないようにしましょう。

3. その他

ドイツ国内に住居を引っ越す際、インターネットで公共料金の登録住所を変更しようとしたところ、当該公共料金の公式サイトと酷似するサイトで情報を入力してしまった。後日、酷似サイト側より手数料の請求があったが、クーリングオフの申し出を行っても対応してもらえない。

※ インターネット上には公式を装った類似サイトが存在しますので、十分に注意して判断してください。また、心当たりのない請求や連絡には応じず、安易に個人情報を入力しないようにしましょう。

犯罪に巻き込まれた場合は、まずご自身の安全を確保した上で、その場から速やかに110番通報または最寄りの警察署に被害の届出を行ってください。